

〈学部長からのご挨拶〉

附属学校の児童・生徒・保護者のみなさん、ご入学、進級おめでとうございます。

私は4月から教育学部長となりました木村昌彦です。本来ならば、皆さんと対面してお祝いと歓迎を述べたいのですが、現状では困難なので紙面からお祝いをいたします。



皆さんは新たな環境での学びに胸躍らせていたと思います。しかしながら、このような校内にも立ち入ることのできない状況下で不安を募らせていることでしょう。新学期のスタートも予定より大幅に遅れる事になりました。また授業も課題や映像を中心に実施することになりました。我々教職員（大学、附属）も前例のない事態に対して最大限の準備を行っています。皆さんへの学びの質を保証するために全力を尽くしています。

このような状況下、日本そして世界が様々な事の価値観、学び方の変換が行われていくことになるかもしれません。我々教員そして将来の夢に向かって進んで行く皆さんには、時代に即応した学びを追究しなくてはなりません。学校、教育、社会を取り巻く状況は困難が多くありますが、防御一辺倒では最後には土俵際に追い込まれて寄り切られてしまいます。このような時に必要なのは攻める気持ちと判断行動を持った「攻めの防御」だと思っております。

宮本武蔵の『五輪書』にあるように、相手と対峙するには「**観見の目付**」が肝要です。

時代を読み、相手を読むことが重要です。最悪の状況でも必要な物を取りに行く、大事な物を守る事が必要です。新型コロナ感染を迎え撃つのではなく、立ち向かって行きましょう。

皆さんは将来のなりたい自分を夢見て附属で学びたいと思っています。

今、私たちには時代から大きなミッションが与えられました。皆さんの夢（なりたい自分）へ繋げるためにも熱いパッション（情熱）を忘れず、今できるアクション（行動・学び）を起こしてください。

そんな皆さんを我々教職員（大学、附属）は全力でサポートしていきます。一緒にこの大きな大きなミッションをやり遂げましょう。

最後になりますが、私の好きな二つの事をお伝えします。

一つ目は 真剣だと知恵が出る

中途半端だと愚痴が出る

いい加減だと言いつばかり

二つ目は

今だから「ありがとう」の意味を再度、皆で考えましょう。

「ありがとう」には三つの意味があると言われています。

1. 人に対する感謝の言葉

2. 「難」が「有る」全ての試練や苦しみは自分にかされた課題である、他のせいにな

い。そしてそれを克服した自分に感謝

3. 「有ることが難しい」今、この瞬間も普段の生活も全てが奇跡である。

みんなで力を結集して新たな学び、力を獲得しましょう。

あらためて、みなさんのご入学、進級を心よりお祝いし、歓迎いたします。

がんばりましょう！

卯月吉日に

教育学部長

木村 昌彦